

古代末期・東方キリスト教論集

戸田聡 [著] A5 判・上製・400 頁・本体 5,250 円 (税込定価 5,775 円)
ISBN 978-4-400-31094-5 C1016

「己れの研究の内容が、己れがキリスト者でありかつ日本人であるという事実にとれほど刺さっているか」——（あとがきより）

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳、そのほか著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる諸論考など、常に優れた成果を生み出してきた研究者の歩みを示す 27 編。

著者紹介 戸田 聡（とだ さとし）

東京大学経済学部卒。中小企業金融公庫（当時）勤務ののち、一橋大学大学院に進学、同中退ベルギー・ルーヴァンカトリック大学（フランス語圏）に留学し、同哲学・文学部東洋学研究所（当時）に在籍、1999 年同特別学士課程修了。2003 年オランダ・ライデン大学文学部（当時）博士課程に転籍、2006 年同大学から文学博士号（doctor litterarum）を授与される。専門は古代キリスト教史、東方キリスト教文学。一橋大学他での非常勤講師等を経て 2013 年 4 月から北海道大学大学院文学研究科（現・文学研究院）教員、現在に至る。

著書：『キリスト教修道制の成立』（創文社、2008 年）、*Vie de S. Macaire l'Egyptien. Edition et traduction des textes copte et syriaque* (Gorgias Press, 2012)、『砂漠に引きこもった人々 キリスト教聖人伝選集』（編訳。教文館、2016 年）、『古代キリスト教研究論集』（北海道大学出版会、2021 年）他。

訳書：K.S. フランク『修道院の歴史』（2002 年）、J. ファン・デル・フリート『解説 ユダの福音書』（2007 年）、A.H.M. ジョーンズ『ヨーロッパの改宗 ―コンスタンティヌス《大帝》の生涯―』（以上教文館、2008 年）、P. ブラウン『貧者を愛する者 古代末期におけるキリスト教慈善の誕生』（慶應義塾大学出版会、2012 年）、H.-G. ベック『ビザンツ世界論 ―ビザンツの千年―』（知泉書館、2014 年）、M. ヴェーバー『宗教社会学論集 第 1 巻上』（北海道大学出版会、2019 年）他。

【目次より】

第 1 部 キリスト教修道制、古代末期

- 第 1 章 禁欲主義という生き方
- 第 2 章 キリスト教修道制の成立と、なお残る問題
- 第 3 章 キリスト教修道制の成立——隠修制と共住制——
- 第 4 章 M. Weber における「禁欲」「修道制」概念
- 第 5 章 キリスト教にとって修道制は何を意味するか
- 第 6 章 キリスト教修道制におけるしあわせ？
- 第 7 章 Peter Brown の古代末期理解をめぐる
- 【書評】P・ブラウン『古代末期の形成』
- 【書評】長谷川宜之『ローマ帝国とアウグスティヌス』

第 2 部 東方キリスト教とその周辺

- 第 1 章 『エジプト人マカリオス伝』研究——経過報告——
- 第 2 章 『エジプト人マカリオス伝』をめぐる諸考察
- 第 3 章 翻訳か自国語か——東方キリスト教文学伝承の一齣——
- 第 4 章 東方キリスト教文学におけるアラビア語——翻訳との関係で——
- 第 5 章 東方キリスト教における聖人伝と翻訳
- 第 6 章 最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサン——或いは、人文学の存在意義をめぐる——
- 第 7 章 【翻訳】バルダイサン『諸国の法の書』
- 第 8 章 最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンの知的背景
- 第 9 章 東方キリスト教をめぐる
- 【書評】久松英二『祈りの心身技法』
- 【書評】Goehring & Timbie (eds.), *The World of Early Egyptian Christianity*
- 【書評】青木健『マニ教』
- 【書評】小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』

第 3 部 その他

- 第 1 章 イスラム教徒から批判された教皇ベネディクト 16 世の講演
- 第 2 章 宗教を研究し教えることに何の意味があるか
- 第 3 章 なぜ今 Weber『宗教社会学論集』の新訳が必要か
- 第 4 章 ヴェーバー『宗教社会学論集』第 1 巻上（拙訳）への註記及び覚書
- 【書評】キリスト教史学会編『マックス・ヴェーバー「倫理」論文を読み解く』